

# ふるさと 持田を歩く

持田公民館



**亀尾神能**

西持田町亀尾地区の正月行事「成徳神祭」の神事を起源に、後世、持田神社例大祭の夜の奉納神事として、松井上氏より伝授されたもの。明治初期の神楽舞禁止令により、神職の参列が困難になったのを、地域住民全戸参加による亀尾敬神会にて、氏子を中心に継承。第二次大戦後、神能技能保持者の減少に危機感をいだく会員を中心に、昭和26年、保存会を設立。

亀尾神能は、島根半島地域に隆盛した神事のひとつで、最古といわれる佐陀神能と同系統であるが、独自の色合いを持つといわれている。「八重垣（オチ退治）」の面や衣装は能楽的である。舞楽の祖神とされる天鏡女命（あめのみこと）を祭神とする持田神社の例大祭（4月24日）の夜の神事として毎年奉納されるほか、10月にもと神能奉納の要請を受け、松江市内の神社に向向くことも多い。（「瀬部松Vol.17」より転載 一部加筆）

※写真提供：石備良由美さん

## MOCHIDA 持田へのアクセス

- ◆JR松江駅より約4.8km
- ◆JR松江駅より一畑バス（美保関方面行き）にて持田下車 約2分



持田地区わがまち自慢発掘プロジェクトチーム

持田公民館

〒690-0814 島根県松江市東持田町61番地  
TEL (0852) 21-3067 FAX (0852) 21-8770

発行 2012年(平成24)12月

## 持田の古墳

国道431号を挟む川津・持田地区の水田地帯の周辺部は、島根半島西部の6世紀頃の有数の古墳地帯とされます。

**1. 薄井原古墳**（すいはらこふん） 前方後方墳で、全長約50m。前方部先端幅23m、びれ部幅18m。後方部幅22m、高さ4.5mです。後方には方向を異にする2つの横穴式石室があり、どちらも長さ約8mほどの片袖式（かたそでし）の横穴式石室で、石棺を置いています。副葬品として須臾器（すえき）、ガラス小玉、直刀、馬具、鉄鏝（てつこ）などが見つかっており、副葬品などから6世紀前半頃の築造と考えられています。昭和37年6月12日に島根県の文化財（史跡）の指定を受けています。（松江市ふるさと文庫「松江市の指定文化財」から一部引用）



**2. 太田古墳群** 東持田町太田地区内にある1~5号の古墳。1号墳は加佐奈子（かさな）神社本殿裏にあります。石室のふた部分が割れて内部に落ち込んでいることから、神社の名前が「笠なし」となったとも言われています。2~5号墳はいずれも近くの民家や畑の根元に点在していますが、すべて墳丘は nearly 完全に露出しています。古墳時代後半、6世紀後半から7世紀初期、この地域を治めた首長のものと考えられます。

※写真提供：松江市教育委員会 文化財課

## 北山縦走マップ



### コースの概要

持田公民館を発着点にした北山縦走コースは全長約25km。枕木山(まくらぎさん)一坂山(みさかやま)一澄水山(しみずさん)一滝空山(たきぞらやま)一大平山(おおひらやま)を結ぶ稜線部(松江北山)は中国自然歩道として整備されており、島根半島東部の海と山を併せて楽しむことができる。枕木山一澄水山は中国自然歩道と林道が重複、澄水山から車道(林道北山線)と歩道が分岐する。工事中の林道北山線は平成28年度完成予定で、その後は全コースを車で走れることも可能となる。

### 北山縦走をされるときの注意

- マナーを守り安全第一を心がけてください。
- 余格のあるスケジュールを考えてください。
- 天候が悪いときは歩行を控えましょう。
- 強い毒性と攻撃性をもっています。8月から10月は特に攻撃的になります。巣に近づき刺激しないように、ハチが近づいたら手で払ったり、大声を出したりせず静かに離れましょう。ハチはよさ者でないので、もしもの時は頭をバグやタオルで覆って逃げましょう。



小島のさえずり、緑のきらめき。ゆつくり歩こう、私の道。

